

平成27年3月期 第2四半期決算について

ANAホールディングスは、本日10月30日(木)、平成27年3月期 第2四半期決算を取りまとめました。詳細は「平成27年3月期 第2四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成27年3月期 第2四半期の連結経営成績・連結財政状態

(1) 概況

- ・当第2四半期のわが国経済は、緩やかな回復基調が続いておりますが、設備投資は増加傾向にあるなかで弱い動きもみられ、個人消費は持ち直しの動きが足踏みする等、景気はこのところ弱さがみられます。また、先行きについては、各種政策の効果もあり、緩やかに回復していくことが期待されています。
- ・国際線の事業規模を拡大させた航空事業を中心として、売上高は716億円の増収(前年同期比9.1%増)となりました。事業規模の拡大に連動して燃油費等の営業費用も増加しましたが、営業損益は146億円の増益(前年同期比33.8%増)となりました。
- ・連結子会社である全日本空輸(株)において、確定給付年金制度の一部を確定拠出年金制度に移行したこと等により、99億円の特別利益を計上しました。
- ・英国スカイトラックス社より、当社グループは日本で唯一、顧客満足度の最高評価「5スター」エアラインに2年連続で認定されたことに加え、空港サービス全般と太平洋地域に就航する航空会社の総合的なサービス品質の2部門にて、世界で最も優秀な航空会社に選ばれました。
- ・経済環境や競争環境が変動する中で、中期的に目標とする利益水準を達成すべく、「2014-16年度 ANAグループ中期経営戦略」を着実に遂行しております。

これらの結果、第2四半期の連結経営成績は売上高が8,548億円、営業利益は579億円、経常利益は480億円、四半期純利益は357億円となりました。

単位: 億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績(累計)】	平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
売上高	8,548	7,831	716	9.1
営業費用	7,968	7,398	569	7.7
営業損益	579	433	146	33.8
営業外損益	▲98	▲114	15	—
経常損益	480	318	161	50.8
特別損益	102	14	88	617.1
四半期純損益	357	200	157	78.2

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成27年3月期 第2四半期		平成26年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空事業	7,422	518	6,820	392	601	126
航空関連事業	1,089	52	930	37	158	15
旅行事業	890	27	907	27	▲17	▲0
商社事業	613	18	538	18	75	▲0
その他	155	7	142	4	12	3

会計方針の変更に伴い、前第2四半期の売上高および営業費用の一部を遡及修正しております。

(2) 航空事業

①国内線旅客

- ・7月より普通運賃等を改定したことに加え、各種割引運賃を柔軟に設定したこと等により需要を着実に取り込み、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・7月より伊丹・札幌＝青森線を新規開設、羽田＝佐賀線を増便したことに加え、夏休み期間に沖縄路線や札幌路線の期間増便を行う等、ネットワークを充実させお客様の利便性向上に努めました。また、需要に応じて機動的に機材変更を行う等、需給適合を推進しました。
- ・各種「旅割」運賃の水準をきめ細かく見直す等、需要喚起に努めました。
- ・サービス面では、日本各地の多様な魅力を国内外に発信する「Tastes of JAPAN by ANA」において、引き続き各地の特産品を機内や地上サービスに取り入れる等、競争力の強化に努めました。

結果として、国内線旅客収入は15億円の増収(前年同期比0.4%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客】	平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	3,458	3,443	15	0.4
旅客数(千人)	21,675	21,370	305	1.4
座席キロ(百万座席キロ)	30,647	31,141	▲493	▲1.6
旅客キロ(百万人キロ)	19,293	18,950	342	1.8
利用率(%)	63.0	60.9	2.1	——

②国際線旅客

- ・事業規模を拡大する中で、長距離路線を中心に需要が好調に推移したこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・羽田空港発着枠の拡大に伴い、サマーダイヤから羽田＝ロンドン・パリ・ミュンヘン・ハノイ・ジャカルタ・マニラ・バンクーバーの7路線を新規開設したことに加え、羽田＝フランクフルト・シンガポール・バンコクの3路線を増便し、アクセス利便性を活かして都心からのビジネス需要や、日本各地からの乗り継ぎ需要を取り込みました。また、成田ではデュッセルドルフ線を新規開設したほか、既存路線の運航ダイヤを調整し、国際線接続の利便性を向上させました。
- ・夏休み期間を中心に「ビジ割」「エコ割」等の各種割引運賃を日本発全方面に設定し、需要喚起に努めました。
- ・サービス面では、「THE CONNOISSEURS」として世界的に著名なシェフが機内食をプロデュースし、上質でワンランク上のお食事を提供したほか、日本を代表する航空会社として機内食の和食メニューを充実させ、フルサービスキャリアとしての競争力強化に努めました。

結果として、国際線旅客収入は392億円の増収(前年同期比20.0%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客】	平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	2,357	1,965	392	20.0
旅客数(千人)	3,591	3,170	421	13.3
座席キロ(百万座席キロ)	24,718	20,178	4,539	22.5
旅客キロ(百万人キロ)	18,025	15,089	2,936	19.5
利用率(%)	72.9	74.8	▲1.9	——

③貨物

- ・国内線貨物は、宅配貨物需要が堅調に推移したことに加え、北海道・九州発の生鮮野菜貨物需要が好調であったこと等により、輸送重量・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・国際線貨物は、拡大した旅客便ネットワークや、沖縄ーシンガポールー成田線および成田ージャカルタ線の新規開設等により充実した貨物便ネットワークを活用し、アジア・欧州発日本向け貨物や、中国発欧米向け三国間輸送貨物等の旺盛な需要を積極的に取り込みました。また、沖縄貨物ハブの活用により、アジア域内の三国間輸送貨物やエクスプレス貨物を取り込みました。これらにより、輸送重量・収入ともに前年同期を上回りました。

結果として、国内線貨物収入は8億円の増収(前年同期比5.7%増)、国際線貨物収入は106億円の増収(前年同期比21.7%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物】		平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
国内線	貨物収入(億円)	161	152	8	5.7
	輸送重量(千トン)	236	223	13	5.8
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	236	220	15	7.2
国際線	貨物収入(億円)	597	491	106	21.7
	輸送重量(千トン)	428	334	94	28.2
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	1,801	1,366	435	31.8

④その他

- ・マイルージ収入や整備受託収入、バニラ・エア(株)等の収入で構成される航空事業におけるその他の収入は、801億円(前年同期比10.5%増)となりました。
- ・バニラ・エア(株)では、7月より成田ー奄美大島線を新規開設したほか、スマートフォンによる航空券予約を可能としたことや、ANAマイルを特典航空券に交換できるようにする等、利便性の向上をはかりました。また、認知度向上のために他業種との共同キャンペーンを継続的に展開した結果、当第2四半期における輸送実績は、旅客数は570千人、利用率は74.7%となりました。

(3) 航空関連事業・旅行事業・商社事業・その他

- ・航空関連事業においては、羽田空港や那覇空港における空港地上支援業務の受託増等により、当第2四半期の売上高は1,089億円(前年同期比17.1%増)、営業利益は52億円(前年同期比40.4%増)となりました。
- ・旅行事業においては、国内旅行では、堅調な「旅作」商品の一部を、7月より営業を開始した(株)ANAじゃらんパックで取り扱うこととしたこと等により、売上高は前年同期を下回りました。海外旅行では、羽田空港発着路線の拡大に伴い主力商品である「ANAハローツアー」を拡充し、日本各地発の需要を取り込みました。また、旺盛な訪日需要を着実に取り込み、訪日旅行の取扱高は前年同期を上回り過去最高となりました。これらにより、当第2四半期の売上高は890億円(前年同期比1.9%減)、営業利益は27億円(前年同期比0.5%減)となりました。
- ・商社事業においては、リテール部門や航空・電子部門の売上が好調であった一方、円安の影響で食品部門において仕入原価が増加したこと等により、当第2四半期の売上高は613億円(前年同期比13.9%増)、営業利益は18億円(前年同期比2.3%減)となりました。
- ・その他については、不動産事業の好調等により、当第2四半期の売上高は155億円(前年同期比8.9%増)、営業利益は7億円(前年同期比70.7%増)となりました。

(4) 連結財政状態

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期	増減
総資産(億円)	22,763	21,736	1,027
自己資本(億円)(注1)	7,987	7,460	526
自己資本比率(%)	35.1	34.3	0.8
有利子負債残高(億円)(注2)	8,693	8,347	345
D/Eレシオ(倍)(注3)	1.1	1.1	▲0

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(5) 連結キャッシュ・フロー

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成27年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,222	1,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,562	▲453
財務活動によるキャッシュ・フロー	221	▲627
現金および現金同等物期末残高	2,307	2,171
減価償却費	648	676

2. 平成27年3月期の見通し

- ・今後のわが国の経済は、各種政策の効果もあり、景気は緩やかに回復していくことが期待されております。
- ・一方で、当社グループを取り巻く環境は、為替レートの変動リスクや海外景気の下振れリスク、国際的な各種イベントリスクに加え、国内外における競争がさらに激化することも予想されます。
- ・このような中、「2014-16年度 ANAグループ中期経営戦略」を着実に遂行し、中核事業であるフルサービスキャリア事業の国際競争力をさらに強化しつつ、イベントリスクへの耐性を高め収益機会を拡大・多様化するため、最適な事業ポートフォリオの構築に向けた多角化戦略を推進するとともに、コスト構造改革に取り組み、グループ収益の最大化を目指してまいります。

以上により、4月30日に発表いたしました平成27年3月期の連結業績見通しの見直しは行いません。

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【平成27年3月期見通し(連結業績)】	予想	前期実績 (平成26年3月期)	増減
売上高	17,000	16,010	989
営業利益	850	659	190
経常利益	550	429	120
当期純利益	350	188	161

以上